

「はやさ」を表す類義語の分類

藤 田 益 子

0. はじめに

1. 時間の概念に影響を与える文の成分

2. 動詞の種類と性質

3. 「はやさ」の示す語義とは

4. 副詞

4.1. “赶快”

4.2. “赶紧”

4.3. “赶忙”

4.4. “连忙”

5. 形容詞

5.1. “急忙”

5.2. “匆忙”

5.3. “快”

6. 用法の相違

6.1. “赶快”と“赶紧”

6.2. “赶忙”と“连忙”

6.3. “急忙”と“匆忙”

7. 3つの語義にみられる傾向

8. 動詞の性質と「はやさ」を示す語義の関係

9. おわりに

0. はじめに

中国語・日本語を問わず、「はやさ」を表現する言葉には、種類が多い。また、抽象的な概念であることに加え、状況・意思・感情などが微妙な含みを帯びて使い分けられているので、具体的な使い方の区別をするのが難しい。たとえば、日本語で「さっさと食べなさい」・「早く食べなさい」・「急いで食べなさい」等という時、これらの連用修飾語をどういう基準で使い分けしているのだろうか。こうした意味合いを持つ単語は、中国語においても同様の使い分けの難しさがある。辞書の解釈なども、同じような日本語訳が並び、幾つ

かの例をあげるにとどまるものが多く、実際に使う段になると、具体的な相違が掴みにくいのが現状である。中でも、これらの語彙が状況語として働く場合には、中心語の動作の性格が強く関わってくるため、問題を一層複雑にしている。

そこで、本稿では、「はやさ」を表す中国語の語彙の中で、使い分けが難しいものを選び、状況語として働く際の用法と意味の相違の分類を試みる。今回、対象とする語彙は次の通りである。

副 詞：赶快/赶紧/赶忙/连忙

形容詞：急忙/匆忙/快-

1. 時間の概念に影響を与える文の成分

「はやさ」を表す状況語と文との関係で、重要になってくるのが、時間の概念に影響を与える文の成分である。

そこで、其々の語彙について、時間の概念に関わる次の3つの観点から、用法の差異を調べる。

(1) 中心語の性質に関わる適合性。

(2) アスペクトに関わる適合性。

中心語となる動詞に“了”や“着”を伴うことが出来るのか。

(3) 文の表現する語気に関わる適合性。

また、適合性があるとき、各語彙がそれぞれ、どのような意味で使われているのか、日本語との対応を考慮しながら、語義を分析する。

2. 動詞の種類と性質

「はやさ」を表す状況語にとって、中心語の時間的な性質が重要な意味を持つ。殊に、性質や状態を表す形容詞に比べ、動詞は時間的な要素との関わりが大きい。そこでまず、先に挙げた「はやさ」を表す状況語とその修飾を受ける動詞の性質との適合性を調べてみることにする。しかし、すべての動詞が、これらの中心語になれるわけではない。

では、どのような性質を持つ動詞が、こうした状況語の修飾を受けることができるのだろうか。

C・E・ヤホトフ(1987)において、動詞は、アスペクトとアスペクト・テンスの指標との結合能力の違いによって、動作動詞と非動作動詞の2つのグループに分けられている。

ここでいう非動作動詞とは、

- ① 思惟動詞・感覚動詞の大多数 例：“信”，“恨”
- ② 法(ムード)動詞 例：“可以”，“该”
- ③ 繫合的な意味を有する多くの動詞 例：“姓”，“像”
- ④ いずれのグループにも属さない孤立した動詞。 例：“在”などを指す。

そして、その性質について、「アスペクト・テンスの指標と殆ど結合しないこと。動作に対する計数語や動作の進行を表す時間の連用修飾語ともいかなる場合においても殆ど修飾

しないこと。修飾形式がつくことも極めて稀であること。」などを指摘している。それに対し、動作動詞は、「あらゆるアスペクト・テンスの指標と自由に結合し、計数語や虚詞の“来”や“去”とも自由に結合し、修飾形式も取る。」としている。そもそも、「はやさ」とは、動作と時間の関係を修飾するものであるという意味上の性格も考え合わせると、「はやさ」の修飾を受ける動詞は主に動作動詞であると考えられる。

更に、C・E・ヤボトフ(1987)は、動作動詞を文法的特徴に基づき次の3つの下位グループに分類している。

①有限動詞

一定の結果を達成するように思考されており、結果の達成後は、動作が継続できない動詞。

例：送（送る）・進（入る）・掉（落ちる）・放（おく）・开（開ける）等。

②無限動詞

一定の結果という概念とは関連のない動作や、結果とは切り離された動作を意味する動詞。それゆえ、動作に論理的には限界がなく、無限に継続することもできる。

例：做（作る）・说（話す）・吃（食べる）・走（歩く）

唱（歌う）・听（聞く）・笑（笑う）等。

③状態を表す動詞ⁱⁱ

状態の意味を有する動詞。たいていは、人体の状態を表す自動詞である。

また、虚詞“在”と結合せず、接尾辞“着”を伴っても、所与の瞬間に進行している動作を表すことがない。

例：站（立つ）・坐（座る）・跪（跪く）・住（住む）・睡（寝る） 等。

そこで、以下では、中心語となる対象を動作動詞に絞り、この3グループの動詞と状況語の語義と用法の対応について、分析をしたいと思う。

3. 「はやさ」の示す語義とは

「はやさ」には、大きく分けて2つの意味が含まれる。

一つは、「動作の開始時刻を比較して、前もって始める・始まる」というものと、もう一つは、「動作の所要時間を比較して、前もって終える・終わる」というものである。日本語では表記の際に、一般に前者は「早」、後者は「速」の書き分けがある。

この2つは、動詞の性質や発話の時期と密接に関わっており、状況語となる単語の意味もそれらによって変化する。また、時として、この2つの意味を両方含む場合もある。

そこで、本稿では、「はやさ」に関する語義を、

第1義として、「動作の開始時刻を比較して、前もって始める・始まる」もの。

第2義として、「動作の開始時刻を比較して、前もって始める・始まる」または、「動作の所要時間を比較して、前もって終える・終わる」もの。ⁱⁱⁱ

第3義として、「動作の所要時間を比較して、前もって終える・終わる」もの。

の3つに分けて考えていくこととする。

4. 副詞

4.1. “赶快”

“赶快”が状況語として、動詞を修飾した場合、一般に命令の語気になる。

勧誘の意味にも使われることもあるが、その場合は、次に述べる“赶紧”の方がより適切である。

① 有限動詞

語義：すべて第1義である。

赶快 送去。	はやく送りなさい。
进去。	はやく入りなさい。
扔掉。	はやく捨てなさい。
放下。	はやく置きなさい。
开门。	はやく(戸を)開けなさい。
道歉。	はやく謝りなさい。

② 無限動詞

語義：次の例を修飾するときは、第2義である。

赶快 做。	はやく作りなさい。(しなさい)
说。	はやく話しなさい。
吃。	はやく食べなさい。
走。	はやく歩きなさい。

語義：次の例を修飾するときは、第1義である。

赶快 唱。	はやく歌いなさい。
听。	はやく聞いなさい。
笑。	はやく笑いなさい。

③ 状態動詞

語義：すべて第1義である。

赶快 站起来。	はやく立ちなさい
坐下。	はやく座りなさい
跪下。	はやくひざまずきなさい
睡。	はやく寝なさい

*住下去。

<着>

“着”を伴う動詞を修飾しない。

*赶快+V 着

<了>

3種類の動詞を修飾できる。

①Vが有限動詞の場合。

語義：すべて第1義である。

赶快送去了十元钱。	急いで10元送った。
扔掉了烟头。	急いでタバコを捨てた。
放下了手中的工具。	急いで手の中の道具を置いた。
开了门让他进来。	急いで戸を開けて彼を入らせた。
道了歉。	急いで謝った。

*进了屋。

②Vが無限動詞の場合。

“了”を伴うとき、例文からもわかるように、宾语が一定の時間で終わられるものに限られており、この場合の動作の継続時間が短いことを示している。

語義：次の例を修飾するときは、第1義である。

赶快做了个手势。	急いで合図した。
说了几句话。	急いで二言三言話した。
吃了几口饭。	急いで何口か食べた。
走了几步。	急いで何歩か歩いた。

*笑了笑。

語義：次の例を修飾するときは、第2義である。

唱了一段。	急いでひとくさり歌った。
听了几遍。	急いで何遍か聞いた。

③Vが状態動詞の場合

語義：すべて第1義である。

赶快站了起来。	急いで立ち上がった。
坐了下去。	急いで座った。
跪了下去。	急いでひざまずいた。
睡了下去。	急いで寝た。

*住了下去。

4.2. “赶紧”

“赶紧”が状況語として、動詞を修飾した場合、一般に勧誘の語気になる。

命令の意味にも使われることもあるが、その場合は、先に述べた“赶快”の方がより適切である。

① 有限動詞

語義：すべて第1義である。

赶紧送去。	はやく送ろう。
-------	---------

进去。	はやく入ろう。
扔掉。	はやく捨てよう。
放下。	はやく置こう。
开门。	はやく(戸を)開けよう。
道歉。	はやく謝ろう。

② 無限動詞

語義：次の例を修飾するときは、第2義である。

赶紧做。	はやく作ろう。(しよう)
说。	はやく話そう。
吃。	はやく食べよう。
走。	はやく歩こう。

語義：次の例を修飾するときは、第1義である。

赶紧唱。	はやく歌おう。
听。	はやく聞こう。
笑。	はやく笑おう。

③ 状態動詞

語義：次の例を修飾するときは、第1義である。

赶紧站起来。	はやく立ち上がろう。
坐下。	はやく座ろう。
跪下。	はやくひざまずこう。
睡。	はやく寝よう。

* 住下去。

<着>

“着”を伴う動詞を修飾できない。

*赶紧+V 着

<了>

3種類の動詞を修飾できる。動詞の種類と語義の対応は、“赶快”と同じである。ただし、中心語に“了”を伴う場合は、“赶快”よりも“赶紧”の方が適切なようである。

①Vが有限動詞の場合。

語義：すべて第1義である。

赶紧送去了十元钱。	急いで10元送った。
进了屋。	急いで部屋に入った。
扔掉了烟头。	急いでタバコを捨てた。
放下了手中的工具。	急いで手の中の道具を置いた。
开了门让他进来。	急いで戸を開けて彼を入らせた。
道了歉。	急いで謝った。

②Vが無限動詞の場合。

例文からもわかるように、“了”を伴うとき、賓語は、動作が一定の時間で終わる、継続時間が短めのものに限られている。

語義：次の動詞を修飾する場合は、第1義である。

赶紧做了个手势。	急いで合図した。
说了几句话。	急いで二言三言話した。
吃了几口饭。	急いで何口か食べた。
走了几步。	急いで何歩か歩いた。

*笑了笑。

語義：次の例を修飾するときは、第2義である。

赶紧唱了一段。	急いでひとくさり歌った。
听了几遍。	急いで何遍か聞いた。

③Vが状態動詞の場合

語義：すべて第1義である。

赶紧站了起来。	急いで立ち上がった。
坐了下去。	急いで座った。
跪了下去。	急いでひざまずいた。
睡了下去。	急いで寝た。
*住了下去。	

4.3. “赶忙”

“赶忙”は、現在置かれている立場から、状況を逆転させるために急いで動作を行って覆そうとするような場合によく用いられる。そのため、動作を速くすることよりも、即時に動作を着手することに重点が置かれ、①②③すべての動詞に対し、第1義で修飾する。また、その状況を説明する必要上、単文よりも複文で用いられることが多い。命令文には使わない。

①有限動詞

赶忙送去书，让他看。	急いで本を送って、彼に見せる。
进去，汇报。	急いで入って報告する。
扔掉烟头，装作若无其事。	急いでタバコを捨てて、何事もなかったような振りをする。
放下手中的活，去帮忙。	急いでやっている仕事を置いて、助けに行く。
开门，让他进来。	急いで戸を開けて、彼に入らせる。
道歉，说“对不起”。	急いで謝って、「ごめんなさい」と言う。

②無限動詞

赶忙做饭，让他吃。	急いでご飯を作って、彼に食べさせる。
-----------	--------------------

说起来。	急いで話し始める。
吃起来。	急いで食べ始める。
走到那儿。	急いでそこまで歩く。
唱起来。	急いで歌い始める。
听起来。	急いで聞き始める。

为了取笑上司, 他~笑起来。 上司の笑いを取るために、彼は急いで笑い始める。

③状態動詞

赶忙站起来。	急いで立ち上がる。
坐下去。	急いで座る。
跪下去。	急いでひざまずく。
睡下。	急いで寝る。
*住下去。	

<着>

“着”を伴う動詞を修飾しない。

*赶忙+V 着

<了>

3種類の動詞を修飾でき、動詞の種類に係わらず、すべて第1義である。理由は先に述べた通り“赶忙”の持つ性格によるものである。

①有限動詞の場合。

赶忙送去了十元钱。	急いで10元送った。
进了屋。	急いで部屋に入った。
扔掉了烟头。	急いでタバコを捨てた。
放下了手中的工具。	急いで手の中の道具を置いた。
开了门让他进来。	急いで戸を開けて彼を入らせた。
道了歉。	急いで謝った。

②無限動詞の場合。

赶忙做了个手势。	急いで合図した。
说了几句话。	急いで二言三言話した。
吃了几口饭。	急いで何口か食べた。
走了几步。	急いで何歩か歩いた。
唱了一段。	急いでひとくさり歌った。
听了几遍。	急いで何遍か聞いた。
笑了笑。	急いでにこっと笑った。

③状態動詞の場合

語義：すべて第1義である。

赶忙站了起来。	急いで立ち上がった。
坐了下去。	急いで座った。
跪了下去。	急いでひざまずいた。
睡了下去。	急いで寝た。
*住了下去。	

4.4. “连忙”

“连忙”は、前の動作に続く連続性を強調し、無から有に転ずる動きに重点がある。また、動作の持続性を修飾しない。そのため、①②③すべての動詞に対し、語義は第1義となる。

例えば、②の無限動詞で、“他连忙说我没有错”というときは、“说”の後は短い一言である。強調しているのは、口を開いて話し始めるまでの動作の時間の短さであって、話の内容を話す速度のことをさしているわけではない。③の状態動詞も、“见到领导来了、他连忙站起来了。”のように、従来の座った状態が立つ状態に変化したこと、立った瞬間を強調するものである。

また、前の動作との連続性を強調する性格から、複文で多く用いられる。ニュアンスとしては、ひどく急ぐ感じがある。

①有限動詞

连忙送过去。	慌てて送る。
进屋。	慌てて部屋に入る。
扔掉。	慌てて捨てる。
放下。	慌てて置く。
听到敲门声，～开门。	戸をたたく音を聞いて、慌てて開ける。
见到他，～道歉。	彼を見て、慌てて謝る。

②無限動詞

连忙做起来。	慌てて作り始める。
说起来。	慌てて話し始める。
走开了。	慌てて歩き始める。
唱起来。	慌てて歌い始める。
看到有留言，我～听起来。	メッセージがあるのを見て、慌てて聞き始める。
*笑。	

③状態動詞

连忙站起来。	慌てて立ち上がる。
坐下去。	慌てて座る。
跪下去。	慌ててひざまずく。
睡下。	慌てて寝る。
*住。	

<着>

“着”を伴う動詞を修飾しない。

*连忙+V 着

<了>

3種類の動詞を修飾でき、動詞の種類に係わらず、すべて第1義で修飾する。理由は先に述べた“连忙”のもつ性質による。

①有限動詞の場合。

连忙送去了十元钱。	慌てて10元送った。
进了屋。	慌てて部屋に入った。
扔掉了烟头。	慌ててタバコを捨てた。
放下了手中的工具。	慌てて手の中の道具を置いた。
开了门让他进来。	慌てて戸を開けて彼を入らせた。
道了歉。	慌てて謝った。

②無限動詞の場合。

连忙做了个手势。	慌てて合図した。
说了几句话。	慌てて二言三言話した。
吃了几口饭。	慌てて何口か食べた。
走了几步。	慌てて何歩か歩いた。
唱了一段。	慌ててひとくさり歌った。
听了几遍。	慌てて何遍か聞いた。
笑了笑。	慌ててにこっと笑った。

③状態動詞の場合

连忙站了起来。	慌てて立ち上がった。
坐了下去。	慌てて座った。
跪了下去。	慌ててひざまずいた。
睡下了。	慌てて寝た。
(*)住下了。	?慌てて住んだ。 ^{iv}

5. 形容詞

5.1. “急忙”

状態の変化を目的とし、慌てふためいてすぐに動作を行なうという感じが強い。心理的な焦りが含まれる点では、ニュアンスは副詞の“赶忙”に似ている。しかし、状況を反転させる感じはない。また、同じ第1義でも、“急忙”の方が“赶忙”よりも、もっと「はやく動作をする」という印象があるようだ。

①有限動詞

“急忙”は、有限動詞を修飾しない。

②無限動詞

語義：以下の例を修飾するときは、第1義である。

急忙做起来。	急いで作り始める。
说起来。	急いで話し始める。
吃起来。	急いで食べ始める。
走起来。	急いで歩き始める。

ただし、次の例は成立しない。

- * 唱起来。
- * 听起来。
- * 笑起来。

③状態動詞

語義：以下の例を修飾するときは、第1義である。

急忙 站起来。	急いで立ち上がる。
坐下去。	急いで座る。
跪下去。	急いでひざまずく。

ただし、次の例は修飾しない。

- * 睡下去。
- * 住下去。

<着>

“急忙”+V 着

動詞に“着”を伴うことが出来るのは、②無限動詞の一部だけである。

語義：第3義である。

急忙地做着。	急いで作っている。
说着。	急いで話している。
吃着。	急いで食べている。
走着。	急いで歩いている。

ただし、次の例は修飾しない。

- * 唱着。
- * 听着。
- * 笑着。

<了>

“急忙”+V了

①有限動詞の場合。

語義：すべて第1義である。

急忙送了过去。	急いで送った。
进去了。	急いで入った。
扔掉了烟头。	急いでタバコを捨てた。
放下了手中的工具。	急いで手の中の道具を置いた。
开了门让他进来。	急いで戸を開けて、彼を入らせた。
道了歉。	急いで謝った。

②無限動詞の場合。

語義：次の動詞を修飾する場合は、第2義である。

急忙做了个手势。	急いで合図した。
说了几句话。	急いで二言三言話した。
吃了几口饭。	急いで何口か食べた。
走了几步。	急いで何歩か歩いた。

語義：次の動詞を修飾する場合は、第1義である。

急忙唱了一段。	急いでひとくさり歌った。
听了几遍。	急いで何遍か聞いた。
笑了笑。	急いでにこっと笑った。

③状態動詞の場合。

語義：以下の例を修飾するときは、第1義である。

急忙站了起来。	急いで立ち上がった。
坐了下去。	急いで座った。
跪了下去。	急いででひざまずいた。

ただし、次の例は成立しない。

- * 住了下去。
- * 睡了下去。

<重疊型>

“急忙”が重疊型になると、①有限動詞に対しても修飾可能となる。そして、動詞の性質に係わらず、すべて第3義で用いられ、動作の速さに重点がおかれる。

また、形容詞が重ねられることによって「はやさ」が強調される。

①有限動詞

急急忙忙地送过去。	あたふたと送る。
进去。	あたふたと入る。

扔掉。	あたふたと捨てる。
放下。	あたふたと置く。
开门。	あたふたと戸を開ける。

* 道歉。

②無限動詞

急急忙忙地做。	あたふたと作る。
说。	あたふたと話す。
吃。	あたふたと食べる。
走。	あたふたと歩く。

ただし、次の例は修飾しない。

* 唱。

* 听。

* 笑。

③状態動詞

急急忙忙地站起来。	あたふたと立ち上がる。
坐下去。	あたふたと座る。
跪下去。	あたふたとひざまずく。

ただし、次の例は修飾しない。

* 睡。

* 住。

5.2. “匆忙”

“匆忙”が裸の動詞を修飾できるのは、③状態動詞に限られ、すべて第1義である。
“急忙”と同じく、以下のすべての場合で“住”と“睡”は修飾しない。

③状態動詞

匆忙 站起来。	すぐさま立ち上がる。
坐下去。	すぐさま座る。
跪下去。	すぐさまひざまずく。

ただし、次の例は修飾しない。

* 睡。

* 住。

<着>

“匆忙”+V 着

動詞に“着”を伴うことが出来るのは、②無限動詞の一部だけある。

語義：第3義である。

匆忙地做着。	急いで作っている。
说着。	急いで話している。
吃着。	急いで食べている。
走着。	急いで歩いている。

次の例は、修飾しない。

* 唱着。

* 听着。

* 笑着。

<了>

“匆忙”+V了

①有限動詞の場合。

語義：第3義である。

匆忙地送了过去。	すぐさま送った。
进去了。	すぐさま入った。
扔掉了烟头。	すぐさまタバコを捨てた。
放下了手中的工具。	すぐさま手の中の道具を置いた。
开了门让他进来。	すぐさま戸を開けて、彼を入らせた。
道了歉。	すぐさま謝った。

②無限動詞の場合。

語義：次の動詞を修飾する場合は、第3義である。

匆忙地做了个手势。	すぐさま合図した。
说了几句话。	すぐさま二言三言話した。
吃了几口饭。	すぐさま何口か食べた。
走了几步。	すぐさま何歩か歩いた。

ただし、次の例は修飾しない。

* 唱了一段。

* 听了几遍。

* 笑了笑。

③状態動詞の場合。

語義：第1義である。

匆忙地站了起来。	すぐさま立ち上がった。
坐了下去。	すぐさま座った。
跪了下去。	すぐさまひざまずいた。

ただし、次の例は修飾しない。

* 住了下去。

* 睡了下去。

<重畳型>

“匆忙”が重畳型になると、①有限動詞や②無限動詞に対しても、動詞の性質に係わらず修飾できるようになる。

語義：第3義である。*

①有限動詞

匆匆忙忙地送过去。	あたふたと送る。
进去。	あたふたと入る。
扔掉。	あたふたと捨てる。
放下。	あたふたと置く。
开门。	あたふたと戸を開ける。
* 道歉。	

②無限動詞

匆匆忙忙地做。	あたふたと作る。
说。	あたふたと話す。
吃。	あたふたと食べる。
走。	あたふたと歩く。

ただし、次の例は修飾しない。

* 唱。

* 听。

* 笑。

③状態動詞

匆匆忙忙地站起来。	あたふたと立ち上がる。
坐下去。	あたふたと座る。
跪下去。	あたふたとひざまずく。

ただし、次の例は修飾しない。

* 睡。

* 住。

5.3. “快”

“快”は状況語に用いると、命令や勧誘の語気を含む。またこの場合、重畳型にはならない。

①有限動詞

語義：次の例を修飾するときは、すべて第1義である。

快 送去。	はやく送rinaさい。
进去。	はやく入rinaさい。
扔掉。	はやく捨テナさい。
放下。	はやく置kinaさい。
开门。	はやく(戸を)開ケナさい。
道歉。	はやく謝rinaさい。

②無限動詞

語義：次の例を修飾するときは、第2義である。

快 做。	はやく作rinaさい。(しなさい)
说。	はやく話shinaさい。
吃。	はやく食ベナさい。
走。	はやく歩kinaさい。

語義：次の例を修飾するときは、第1義である。

快 唱。	はやく歌inaさい。
听。	はやく聞inaさい。
笑。	はやく笑inaさい。

③状態動詞

語義：すべて第1義である。

快 站起来。	はやく立チナさい。
坐下。	はやく座rinaさい。
跪下。	はやくひざまずkinaさい。
睡。	はやく寝ナさい。

* 住下去。

<着>

“着”を伴う動詞を修飾しない。

*快+V 着

<了>

“了”を伴う動詞を修飾した場合、“快+V了”となり、ここでの「はやさ」を表す意味ではなくなる。

6. 用法の相違

以上、それぞれの語彙について、動詞の性質との関係から「はやさ」の示す意味を分類した。しかし、これらの語義は、様々な語彙の上で類似表現として重複して使われており、これだけでは、区別がはっきりしない。そこで、次に語義の対応が比較的似ているものを対照し、同義という観点から、用法の相違を比較する。

6.1. “赶快”と“赶紧”

動詞の種類と語義の対応は、全く同じである。実際にこの両者は混用される場合が多く、辞書類の解釈やインフォーマントの意見を照らし合わせてみても、一見区別がないように思われる。

次のような場合、“赶快”と“赶紧”はどちらも使われる。

動詞が裸の次のような場合は、中心語の適合性の上で、優劣は見られない。しかし、語気に違いが出てくる。

“坐下！”“座りなさい”という命令文に其々の単語を加えて見ると次のようになる。

- | | |
|---------|---------------|
| a 赶快坐下！ | はやく座りなさい。(命令) |
| b 赶紧坐下。 | はやく座ろう。(勧誘) |

この2つの例文の大きな違いは、動作の対象として話し手が含まれているか否かの点にある。話し手の「はやく」という言葉のなかに、話し手本人の感情的な焦りが含まれる場合、“紧促”(差し迫っている、追い詰められている)というニュアンスを持つ“赶紧”が使われ、勧誘の語気が表現されるものと思われる。

また、動詞が“了₁”を伴う場合は、命令の語気を伴うとき以外、全体的に“赶紧”の方が優勢なようである。

(1) はやく～して(し終わったら)、…しろ。(命令)

- | | |
|--------------|---|
| a 赶快放了它, 过来! | |
| b 赶紧放了它, 过来! | △ |

(2) はやく～して(し終わったら)、…しよう。(勧誘)

- | | |
|----------------|---|
| a 赶快吃了, 咱们好出发。 | △ |
| b 赶紧吃了, 咱们好出发。 | |

(3) 急いで～した。

- | | |
|-----------|---|
| a 赶快站了起来。 | △ |
| b 赶紧站了起来。 | |

- | | |
|-----------|---|
| c 他赶快吃完了。 | * |
| d 他赶紧吃完了。 | |

6.2. “赶忙”と“连忙”

両者とも、状況の反転を目的として瞬発的な動きを表現しようとする性格が共通しており、そのため、どの種類の動詞との関係においても、すべて第1義をとる。語気や用法についても、大きな違いは見られない。

しかし、ニュアンスに違いがみられる。“赶忙”の方が、逆境に立たされて焦っているような心理的に急く感じがあり、主体的に急ごうとする印象を与える。一方、“连忙”は、意味の面では、“赶忙”より強く急ぎ慌てる感じがあるが、状況に迫られて受動的に慌てている印象を与える。先に述べた動詞では、“笑”（笑う）の例にその違いがはっきり見られる。

- a 为了取笑上司,他赶忙笑起来。 上司の笑いを取るために、彼は急いで笑い始める。
- b 为了取笑上司,他连忙笑起来。 *

この例は、本来自然な行為である「笑う」という動作に「急ぐ」という自発的な意思を伴わせようとするものである。その場合、意思を持って急いで笑うための必要条件、つまり焦る心理を表現する必要性がある。その点において、主体性を帯びる“赶忙”の方が適切であると考えられる。“连忙”を用いても、文法的に問題はないが、先に述べた受動的なニュアンスと、速度、笑うという動作の性質が合わないため、不自然な文となる。

6.3. “急忙”と“匆忙”

動詞の種類と語義の関係に違いが見られる。

まず、動詞が裸の状態、両者とも①有限動詞を修飾しないが、他の種類の動詞では状況が異なる。“急忙”は②無限動詞と③状態動詞を第1義で修飾するが、“匆忙”は第1義で③状態動詞しか修飾しない。

動詞が“着”を伴う形は両者とも修飾しない。語義と修飾関係の上での差異は見られない。

動詞が“了”を伴う場合は動詞の種類と語義関係で、違いが見られる。①の有限動詞に対し“急忙”は第1義であるが、“匆忙”第3義である。②の無限動詞に対しては、“急忙”は基本的には、第2義で、“唱”・“听”・“笑”に対しては第1義であるが、“匆忙”第3義であり、“唱”・“听”・“笑”に対しては修飾しない。第3義の状態動詞に対しては差異は見られない。

重畳型の際は、両者とも同じである。“道歉”・“唱”・“听”・“笑”・“住”・“睡”等の状況語とならず、これ以外の動詞に対してはすべて第3義をとる点で同じである。

ニュアンスには違いがみられる。“急忙”には、精神的に焦って急く感じがあり、主体的にはやく動作をすることに重点がある。一方、“匆忙”には、慌しい感じの状態や様子に重点がおかれている。この点では、副詞の“赶忙”と“连忙”の対応に似ている。

また同じ主体的に急く感じのある単語でも、“赶紧”・“赶忙”は他人に合わせる感じがあるが“急忙”にはない。

7. 3つの語義にみられる傾向

動詞の示す動作にかかる時間の長短とそれに伴う状態に、「はやさ」の示す語義が深い関わりを持っている。また、発話時にすでに動作が開始されているか否かによっても表す語義が変わってくる。全体的に、第1義をとるのは、副詞が多いようである。他に、“马上”や“立刻”などはすべて、第1義で使われている。第2義は無限動詞を修飾する際にのみ見られた。また第3義は今回調べた副詞の中には現れなかった。それに対し形容詞は第1義、第2義、第3義すべての語義が見られる。しかし、動詞に“着”を伴ったり、形容詞が重畳型になることで、その状態が強調され、「速度が速い状態にあることを表す」第3義が多く見られた。

また、語彙が第3義を表すとき、意思を持って速度を変えることが出来ない“唱”・“听”・“笑”等は修飾を受けない。

8. 動詞の性質と「はやさ」を示す語義の関係

①有限動詞・③状態動詞を修飾する場合、普通、第3の語義で使われている。なぜなら動詞の性質上、動作開始の時点は存在するものの、動作は短時間で終了してしまい、継続のためのある程度の所要時間を必要としない。そのため、動きの速度を速めて所要時間を縮めるという第1の語義は成り立たないからである。

②無限動詞を修飾する場合、第1義、第2義の両方の語義が成立する。②は無限動詞の性質上動作に開始の時点と継続のための一定の所要時間が必要となる。そこで、発話時に、動作がまだ始まっていない場合は、第1義と第2義の両方を含むか、もしくはどちらか一方の意味で使われ、すでに動作が着手されている場合は第2の意味で使われる。

しかし、②無限動詞の中には、第2義の修飾を受けないものもある。「聞く」・「笑う」などの例がそれである。これは、これらの動詞が動作の継続する所要時間を必要とする無限動詞でありながら、自分の意志で動作に緩急をつけることが出来ない動詞であり、進行中の動作に速度を促す点で第2義と相容れないためである。また、「歌う」も、曲に合わせて速度の決まった歌を歌うことをさす場合は、これと同様と考えられる。^{vi}

9. おわりに

今回は、「はやさ」を表す状況語の中でも、同一語義の上で対称性のある語彙のみについて触れた。類義語の意味と用法の差異を明らかにすることを目的としたため、中心語も動作動詞に絞り、大まかな分類に基づいて語義を大別した。しかし、一部の動詞については、決まって「はやさ」を表す語の修飾を受けないものもあり、中心語としての動詞の分類方法についても、より詳細な分析の必要性が浮き彫りとなった。

また、日本語の「はやさ」に関する語彙も非常に豊富であり、中国語との対応は困難を極めた。必ずしも、日本語のそれぞれの語彙と正確に対応しているわけではないので、今回は便宜上、最も基本的な日本語での対訳を付した。今後、日本語の詳細な対応も含めて、研究の課題とするところである。

注：

ⁱ 『中国語大辞典』・『中日辞典』・『中日大辞典』などの一般的な辞書類に収められ、且つ比較的常用される語彙に絞って比較の対象とする。

ⁱⁱ 有限、無限の両方の性格を兼ね備えているが、「動作の継続という意味を持たない」点では、有限動詞に似ているとしている。

ⁱⁱⁱ 基本的に両方の語義を兼ね備えているものは第2義とみなす。しかし、動作がすでに着手されてしまってから、発話された場合は、当然第3義の意味しか表さない。

^{iv} 特殊な状況下では、可能な場合もあるが、一般的にはあまり言わない

^v 中日辞典によると「“急忙”は重ね型にすることができるが、“连忙”は重ね型にはできない」とある。しかし、本稿では、基準としたインフォーマントの語感に拠った。実際に、形容詞の重ね型については、辞書や別のインフォーマントによって、差が確認された。

^{vi} 本稿では、“唱”を決まったテンポの音楽などに合わせて歌うものとして扱った。速度を自分の意志で勝手に変えることが出来ない点で、“听”と同様である。歌の練習などで、故意に速度を調節する場合の意味は含んでいない。

参考文献：

- C. E. ヤーボトフ著 橋本萬太郎訳 1987. 『中国語動詞の研究』 白帝社
相原茂他 1994. 『現代中国語文法総覧』(上)・(下) くろしお出版
相原茂・荒川清秀・大川完三郎・杉村博文 1995. 『中国語類義語のニュアンス』 東方書店
工藤真由美 1997. 『アスペクト・テンス体系とテキスト』 ひつじ書房
益岡隆志・仁田義雄・郡司隆男・金水敏 1997. 言語の科学5『文法』 岩波書店
工具書：
大東文化大学中国語大辞典編纂室 1994. 『中国語大辞典』 角川書店
愛知大学中日大辞典編纂処 1986. 『中日大辞典』増訂版 大修館書店
北京商務印書館・小学館 1996. 『中日辞典』 小学館
大野晋・浜西正人 1997. 『類語国語辞典』 第10版 角川書店
大野晋・浜西正人 1988. 『類語新辞典』 角川書店
田忠魁・泉原省二・金相順 1998. 『類義語使い分け辞典』 研究社

附記：

今回、語義の分類に際し、基準としたインフォーマントの言語環境は次の通りである。
25歳(1974年生)。女性。北京市原籍。大学院生。
1974—1995年北京市。1995— 日本。